



| | |
|--------------|---|
| Title | ごあいさつ |
| Author(s) | 千代, 賢治 |
| Citation | 癌と人. 1995, 22, p. 1-1 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/23946 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ごあいさつ

理事長 千代 賢治

皆様には益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

平素は、財団法人「大阪癌研究会」に対し、格別のご支援、ご協力を賜り誠に有難うございます。

おかげさまで、当財団の前身である財団法人大阪癌治療研究会が昭和10年に設立されて以来、本年を以て60年の節目の年を迎えることとなりました。戦中・戦後の混乱の時代を乗り越えて、がんの制圧という嵩高い使命に着々と歩を進めてこられた関係各位のご努力と、当財団に深いご理解とご支援をいただきました会員の皆様に改めて心から敬意を表するものであります。

さて、現在我が国は世界的に見ましても過去に例のないスピードで高齢化が進行しております。昭和10年に男性46才、女性49才といずれも50才に満たなかった平均寿命は戦後急速な伸びを見せ、平成5年には男性76才、女性82才となりました。高齢者人口（65才以上）の比率も当時は約5%でしたが現在は約15%と急上昇し、今後30年のうちには25%に達すると見られています。生涯できるだけ健康で、生き甲斐を感じられる社会の実現を願わずにいたりません。

しかし現実には、このような高齢化社会の進行にともなって、成人病、特にがんが急増し昭和56年以降死因の第1位を占め続けているのです。とりわけ、がんの問題点は、働き盛りの年齢層から高年齢層にかけて（30才～79才）広範囲にわたって死亡順位が第1位となっている点であります。

現在、がんは国民にとって未だに最も恐るべき疾病の一つであり、その制圧はわが国の緊急を要する国家的課題です。このため政府は昭和58年に「対がん10か年総合戦略」を策定し、さらに平成6年度からはがん克服へ向けて新たに「がん克服新10か年戦略」をスタートさせ、がんの本態解明の研究の充実に加え、がん克服を主眼とした臨床や予防研究の重点的な推進を図ることとしています。

わが財団は、多年に亘りがん予防のための知識の普及、学術研究の奨励助成、そして早期発見・早期治療のための検診の拡大に努めてまいりました。残念ながら、情勢変化により検診事業については平成6年3月をもちまして中止のやむなきに至りましたが、今後とも設立趣旨に沿ってがんの研究や治療のために日夜を分かたぬ努力を続けておられる方々を支援し、また健やかな健康を自ら守るための基礎知識の啓蒙運動に努力してまいります。今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げます。